喜茂別町立学校情報機器整備事業に係る各種計画

１．端末整備（更新）計画

２．公立学校ネットワーク整備計画

３．校務ＤＸ計画

４．児童生徒１人１台端末の利活用に係る計画

令和７年３月 喜茂別町教育委員会

１．端末整備（更新）計画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和 10 年度 |
| ① 児童生徒数 | 96 人 | 94 人 | 89 人 | 90 人 | 91 人 |
| ② 予備機を含む  整備上限台数 | 111 台 | 108 台 | — | — | — |
| ③ 整備台数  （予備機を除く） | 0 台 | 108 台 | 0 台 | 0 台 | 0 台 |
| ④ ③のうち  基金事業によるもの | 0 台 | 108 台 | 0 台 | 0 台 | 0 台 |
| ⑤ 累積更新率 | 0.0％ | 100.0％ | 104.0％ | 101.6％ | 104.9％ |
| ⑥ 予備機整備台数 | 0 台 | 14 台 | 0 台 | 0 台 | 0 台 |
| ⑦ ⑥のうち  基金事業によるもの | 0 台 | 14 台 | 0 台 | 0 台 | 0 台 |
| ⑧ 予備機整備率 | — | 14.8％ | — | — | — |

【端末の整備・更新計画の考え方】

令和２年度に整備した、喜茂別小学校及び喜茂別中学校の児童生徒用端末 107台について、経年劣化による故障・破損が増えている状況から更新することとし、令和７年度に購入、令和７年１０月以降から使用を開始する。（児童生徒用 94 台、予備機 14 台、計 108 台の購入）

【更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について】

○対象台数：107 台

○処分の方法

・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 ： 107 台

〇端末のデータの消去方法

・自治体の職員が行う

〇スケジュール（予定） 令和７年９月 端末納入

令和７年10月 新規購入端末の使用開始

令和７年10月 使用済端末のデータ消去、事業者への引渡し

２．ネットワーク整備計画

* 総学校数：２校
* 必要なネットワーク速度が確保できている学校数：２校

（令和６年３月測定ネットワーク速度）

・喜茂別小学校（児童数 57 人）

アクセスポイント接続実測値：375Mbbs簡易測定結果（実測値×1.4）：525Mbbs

当面の推奨帯域（児童生徒数 90 人まで）：161Mbbs

・喜茂別中学校（生徒数 34 人）

アクセスポイント接続実測値：161Mbbs簡易測定結果（実測値×1.4）：225Mbbs

当面の推奨帯域（児童生徒数 60 人まで）：108Mbbs

* 総学校数に占める割合：100％

令和６年３月にネットワーク速度を測定したところ、町内全ての学校において、アクセスポイント接続の実測値から算出した簡易測定結果が、文部科学省が示している当面の推奨帯域を上回る結果となった。

現状のネットワーク速度は、喜茂別小学校では児童数 560 人まで、喜茂別中学校では生徒数

120 人まで、当面の推奨帯域を満たすこととなる。

今後、必要なネットワーク速度が確保されない状況になった場合は、ネットワークアセスメントを実施する等の対応を行うこととする。

３．校務ＤＸ計画

文部科学省「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 ＤＸを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において次に掲げる事項を重点的に推進する。

（１）クラウド環境等を活用した校務ＤＸの推進

児童生徒・保護者との各種連絡や調査・アンケート等については、汎用クラウドや連絡アプリを活用することにより、保護者の負担軽減及び教員の業務量削減を図る。また、学校だより等の各種配布物についても、原則、汎用クラウドや連絡アプリを活用することとし、ペーパーレス化についても推進する。

（２）ＦＡＸ ・押印の廃止

押印や署名、不要な手入力作業、ＦＡＸでのやり取りのついては、クラウド環境を活用した校務ＤＸを阻害する要因としてあげられることから、校務の効率化、ペーパーレス化を考慮し、廃止する方向で進めていく。

４．児童生徒１人１台端末の利活用に係る計画

（１）１人１台端末を始めとするＩＣＴ環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」（令和３年１月）で示されているとおり、ＧＩＧＡスクール構想にて整備された１人１台端末、高速ネットワーク等を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指す。

（２）ＧＩＧＡ第１期の総括

令和２年度に１人１台の端末配備及び各小中学校への無線ＬＡＮネットワーク環境を整備したことを皮切りに、同年度に学習用ドリルアプリの導入、また、令和３年度に各教室へ電子プロジェクターを整備したことにより、ＩＣＴ環境は飛躍的に改善され、学校におけるＩＣＴの活用は年々増加しており、効果的な学習に繋がっている。

授業中の調べ学習では、インターネットを活用して最新の情報を即座に確認し、児童生徒の主体的な学びが促進されており、また、汎用クラウドを利用した意見共有や共同編集ツールを活用した授業が進み、協働学習の機会も増加している。

一方で、個々の活用状況の差が課題となっており、全ての児童生徒が１人１台端末を最大限に活用して、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」となるよう、研修環境やサポート体制の充実が必要となっている。

（３）１人１台端末の利活用方策

デジタル教科書や学習アプリを効果的に活用し、個々の興味や関心、発達や学習の課題な どを踏まえて、それぞれの個性に応じた学びとなるよう１人１台端末を積極的に活用する。児童生徒にとって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、デジタルドドリ

ルの活用による、児童生徒の理解度や学習進度に合わせた主体的な学びを支援する。また、グループ活動の場面では、汎用クラウド等の各種アプリ及び電子プロジェクター等を活用し、意見整理や協働学習等に活用する。